

出雲市中小企業景況調査結果（平田商工会議所管内）

今 期（2012年10－12月）の 概 要

調査期間 平成25年1月4日（金）～1月15日（火）

対象企業 調査対象企業数30社 回答率28社（回答率 93.3%）
内訳：建設業4社、製造業7社、卸売業2社、小売業8社、サービス業7社

概 況

○全業種の今期業況DIをみると、前期比で $\Delta 26.9$ （前期調査 $\Delta 44.0$ ）とやや持ち直しが見られました。前年同期比でも $\Delta 33.3$ （前期調査 $\Delta 48.0$ ）と2期連続のマイナス幅縮小となりました。来期業況見通しDIは、今期比で $\Delta 39.1$ （前期調査 $\Delta 58.3$ ）と依然として低い水準ながら、厳しさが和らぐことを予測しています。

○全業種の今期売上DIは、前期比で $\Delta 14.3$ （前期調査 $\Delta 40.7$ ）とマイナス幅が縮小しました。前年同期比では $\Delta 46.2$ （前期調査 $\Delta 46.2$ ）と横ばいで推移しています。来期売上見通しDIは今期比で $\Delta 45.8$ （前期調査 $\Delta 50.0$ ）とほぼ同水準で推移。厳しい状況に変わりはありません。

業種別景況調査の主要DI

1、建設業

・今期業況DIが、前期比で0.0（前期調査0.0）と横ばいで推移しましたが、前年同期比は $\Delta 33.3$ （前期調査 $\Delta 25.0$ ）とわずかに悪化しています。今期売上DIは前期比で25.0（前期調査0.0）と改善しましたが、前年同期比は $\Delta 66.7$ （前期調査 $\Delta 25.0$ ）とマイナス幅が再び拡大し

ています。

- ・来期業況見通し DI は、今期比で△33.3（前期調査△66.7）と若干改善する見通しですが、売上見通し DI は△33.3（前期調査△33.3）と、同水準での推移が予測されています。「1月～3月期は忙しいと思われるが、4月以降が不安」と懸念する声もありました。

2、製造業

- ・今期業況 DI が、前期比で△33.3（前期調査△50.0）、前年同期比も△33.3（前期調査△50.0）と、ともにマイナス幅が縮小しました。売上 DI でも前期比△28.6（前期調査△50.0）、前年同期比では△28.6（前期調査△50.0）と、ともにマイナス幅が半減しています。
- ・来期業況見通し DI は、今期比で△33.3（前期調査△50.0）と悪化が和らぎ、売上見通し DI でも今期比で△42.9（前期調査△66.7）と上向くことが予測されています。

3、卸売業

- ・今期業況 DI が、前期比で0.0（前期調査△100.0）とプラス回復しましたが、前年同期比では△100.0（前期調査0.0）と大きく落ち込みました。売上 DI では、前期比で0.0（前回調査0.0）と横ばい推移しましたが、前年同期比では△100.0（前期調査0.0）とマイナス幅が拡大しています。
- ・来期業況見通し DI は、今期比では△50.0（前期調査△100.0）と厳しいながらも持ち直しを予測。売上見通し DI では今期比で0.0（前期調査0.0）と今期と変わらない見通しです。

4、小売業

- ・今期業況 DI が、前期比で△50.0（前期調査△44.4）とやや悪化しましたが、前年同期比では△14.3（前期調査△62.5）と上向きの動きが見られました。売上 DI は、前期比で△25.0（前期調査△44.4）とマイナス幅が縮小し、前年同期比でも△14.3（前期調査△62.5）と改善傾向が見られました。ブランド力を活かして新規客を獲得し、売上を伸ばした企業もありました。
- ・来期業況見通し DI は、今期比で△16.7（前期調査△62.5）、売上見通し DI も△16.7（前期調査△62.5）と悪化に歯止めがかかる見通しです。

5、サービス業

- ・ 今期業況 DI が、前期比で△16.7(前期調査△60.0)、前年同期比でも△33.3(前期調査△50.0)と、ともに3期連続で回復しました。売上DIは前期比で△14.3(前期調査△57.1)と上向きでしたが、前年同期比は△71.4(前期調査△42.9)とマイナス幅が大きく拡大しています。
- ・ 来期業況見通しDIは、今期比で△66.7(前期調査△50.0)と一層業況が悪くなる見込み。来期売上見通しDIでは今期比で△85.7(前期調査△33.3)と。こちらもかなり厳しい状況になることが予測されています。「この先、地元出雲で商売をしていくためには特産品に限らず、文化・歴史・技術・芸術・自然等の『出雲ブランド』を確立していくしかないと思う」と分析する声もありました。

設備投資動向

1、今期設備投資

- | | |
|-------|--|
| 全業種 | 設備投資を実施した事業所の割合は37.9%(前期調査16.0%)で、「機械・備品」への投資の割合が最も高くなっています。 |
| 建設業 | 実施割合が60.0%で、「OA機器」の割合が最も高くなっています。 |
| 製造業 | 実施割合が62.5%で、「機械・備品」の割合が最も高くなっています。 |
| 卸売業 | 実施はありませんでした。 |
| 小売業 | 実施割合が33.3%で、「建物」「機械・備品」「OA機器」が同率で並んでいます。 |
| サービス業 | 実施はありませんでした。 |

2、来期設備投資

全業種	設備投資を計画している事業所の割合は33.3%（前期調査30.8%）で、「機械・備品」への投資の割合が最も高くなっています。
建設業	設備投資を計画している割合が66.7%で、「建物」「その他」が同率で並んでいます。
製造業	設備投資を計画している割合が16.7%で、すべて「機械・備品」となっています。
卸売業	設備投資を計画している企業はありませんでした。
小売業	設備投資を計画している割合が37.5%で、「建物」「機械・備品」「車両運搬具」が同率で並んでいます。
サービス業	設備投資を計画している割合が33.3%で、「機械・備品」「車両運搬具」が同率で並んでいます。

経営上の問題点

全業種	第1位は「需要の停滞、受注減少」が65.4%と、6割強を占めています。第2位は「単価の低下・上昇難」、第3位は「店舗・機械・備品等設備の老朽化」でした。前回調査と同様の結果となりました。
建設業	第1位が「需要の停滞、受注減少」で、50.0%でした。「人件費の増加」「従業員の確保難」を問題点にあげる企業も見受けられました。
製造業	第1位が「需要の停滞、受注減少」で、57.1%で6割弱を占めました。
卸売業	第1位が「金利負担の増加」で、100%でした。

小売業 第1位が「需要の停滞、受注減少」で、62.5%でした。「新規参入業者の増加」「仕入・人件費以外の経費の増加」という回答もありました。

サービス業 第1位が「需要の停滞、受注減少」で、100.0%となっています。第2位は「従業員の確保難」でした。

注：DI（業況判断指数）とは、ディフュージョン・インデックス(Diffusion Index)の略で、「増加」・「好転」したなどとする企業割合から、「減少」・「悪化」などとする企業割合を差し引いた値です。

詳細は業種別景況を参照してください。